

平成29年度 学校自己評価表

(計画段階(実施段階))

福岡県立八幡南高等学校長 印

24  
その1

学校運営方針		「鍛え、ほめ、可能性を伸ばす」ことで、全人的な人間教育と生徒ひとり一人の自己実現をめざす。			
昨年度の成果と課題		年度重点目標	具体的目標		評価(3月)
<p>本校は創立56年目を迎え、これまで継続してきた八幡南の教育活動を更なる高みをめざして発展させる時機にきていると実感している。昨年度は、これまで本校が取り組んできた生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導の成果が、生徒の進路目標達成や部活動の充実となって表れ、地域から信頼される学校づくりが進んだと考える。その成果を踏まえ、本年度は教職員一同が自らの力を最大限に発揮し、生徒の能力を引き出し、生かすことができる教育の推進を学校運営の課題とする。また、生徒会や部活動を主体とした様々なボランティア活動を積極的に行い、一層地域に開かれた地域密着型の学校づくりをめざす。</p>		○高い志を持って意欲的に学び、確かな学力の定着を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・凡事徹底(時を守り、場を清め、礼を正す)</li> <li>・「授業で勝負」の理念のもと、常に日々の授業を分析、検証、改善を努力し、学習意欲の向上による確かな学力の定着を図る。</li> <li>・関係機関(地域・大学等)との連携により、ディープアクティブラーニングを実践する。</li> <li>・ICT機器活用、アクティブラーニングの視点による授業改革、観点別評価の充実を図る</li> </ul>		A
		○生徒ひとり一人の自己実現、進路実現を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己実現総合プログラム「a夢！」を実働させ、生徒の進路意識の高揚を図り、「南高スタンダード」を確立する。</li> </ul>		
		○自ら考え、多様な価値観の人々と協働し、社会の変化に対応して活躍できる人材を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動(生徒会活動、学校行事、ホームルーム活動)や部活動、ボランティア活動等に積極的に取り組み、たくましい人間力、コミュニケーション力の育成を図る。</li> <li>・リーダー教育や掲示教育等とおして、主体的に考え行動できる生徒を育成する。</li> <li>・食育やスポーツの奨励等の取組とおして、心身の健康の保持増進を図る教育を実践する。</li> </ul>		
		○健やかにして豊かな情操を身につけた人間を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権尊重の精神を涵養し、いじめ、暴力、差別等は絶対に許さない人間教育を行う。</li> <li>・他者を思いやり、共に生きる心や公共の精神に基づく、実践力を備えた人材を育成する。</li> <li>・インクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、教育活動全体において特別支援教育を推進する。</li> </ul>		
		○教員の指導力及び学校の組織力向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業公開開閉や職員研修、研究授業大会等の取組とおして、教職員の資質向上に努め、校内の指導体制の整備充実を図る。</li> </ul>		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
教務	学習意欲を涵養し、主体的に学び、考える姿勢を育む教育を推進する	研修部と連携を取り、授業改善に努める。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績処理係や特別時間割等、現在のシステムで更なる効率化、IT化を進めつつ、ミスのないように注意して業務を進める。成績入力後の確認作業を迅速に行うため、教科主任を中心として各教科内の連携を密にしよう働きかける。</li> <li>・授業改善を行うための研究授業等の実施、及び全職員にどのように還元するかについて研修部と連携して検討する。</li> <li>・分掌の業務については、情報広報課と協力しながら業務を組織的に進めるため、係分担について検討し、それぞれの係に係長を置き効率的に進める。</li> <li>・今後の学習指導要領の改訂や高大接続等にあたり、大学入試等も変更の時期を迎えている。生徒にとって有益なカリキュラムになるよう、定期的に教科会議を行い、情報共有を図る。</li> <li>・学習記録帳の様式を改善し、担任・生徒記入欄を大きくする。</li> <li>・学習時間調査は平日と週末の時間を別々に集計することで、教科指導に役立つよう工夫する。</li> <li>・授業アンケートについては、調査時期や調査の進め方について改善を図り、結果の表記についても工夫する。</li> </ul>
		進路指導部と連携を取り、個に応じた指導体制を確立する。	B		
		効果的な授業実践と必要十分な課題の量を調整する。	B		
	教育推進部の組織化を進め、効率的な業務運営を行う	生徒情報管理システムの安定的な運用を行う。	A		
		時間割作成・管理システムの安定的な運用を行う。	A		
		共有フォルダーを効率的に利用し、円滑な業務運営を行う。	A		
学校教育目標を達成するための教育課程編成についての会議の充実を図る	学習指導要領の改訂、高大接続、新テスト導入を見据え、定期的に教科会議を開催し、情報共有を行う。	B			
	新たな学習・指導方法に対応するための情報を収集する。	A			
情報広報	ホームページの更新と広報活動向けのパワーポイント等を作成する	各月の行事に合わせ起案日・更新日を設定し、記録写真等は、情報広報課フォルダにわかりやすく保存する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の大会実績等を、ホームページや校内掲示板へ定期的に掲載できるよう、担当割を徹底する。</li> <li>・今後、デジタル教科書等のソフトの導入等を進め、より多くの授業実践が行える体制をつくっていきたい。</li> <li>・利用簿の記入の徹底や、定期的な情報機器のチェックを行う。</li> <li>・成績入力締切の徹底を図り、生徒が円滑に確認できるようにする。</li> <li>・各教科が提出する成績不振者等の記入用紙を、手書きでなくエクセルで作成できるよう、様式を工夫する。</li> <li>・学校案内や出前授業等を、次年度はいろいろな先生方に協力をお願いする。</li> <li>・今年度と同様に、学校説明用のパワーポイントを早い段階から作成を始める。</li> <li>・広報用に活用できるよう、各行事の写真等を積極的に記録する。</li> </ul>
		広報用のパワーポイントを作成し、体験入学や学校説明会など積極的な広報活動に努める。	B		
	情報機器の管理や情報機器の利用促進を図る	利用記録簿を情報機器の格納場所に置き、運用・管理を確実に行う。	B		
		電子黒板などの、ICTを活用した授業の推進を図る。	B		
	成績処理の学年担当者による管理・処理を行う	教務課と連携し、考査後に速やかに確認表の作成を行い、迅速な成績処理を行う。	A		
成績処理システムや入試システムの使い方を担当者に伝え、処理が行える人材の育成を図る。		A			
生徒指導	基本的な生活習慣の確立を図る	校内研修会を実施し、指導法や教職員の連携の重要性を確認する。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導課会議を定例化し、教員間、学年間連携方法を研究する。</li> <li>・一部の教員に負担がかかりすぎないように、組織的指導を徹底する。</li> <li>・生徒指導の記録を活用し、生徒の心に届く説諭を心がけ、保護者と教員の共通理解の上で指導する。指導の段階で、なぜいけないのかを理解させた上で指導することを心がける。</li> <li>・リーダーによる行事運営や掲示教育(週番活動)を推進する。</li> <li>・指導法の確認のため、及び指導力向上のために職員研修を実施する。</li> <li>・生徒に依存心が生まれぬよう、答えをすぐ教えるのではなく、考えさせ正しい方向に方向付けを行うことを心掛ける。</li> <li>・今年度に引き続き、参加体験型を含む交通安全教室を実施する。</li> <li>・登下校中の危険箇所を教員を配置する登下校指導を実施する。学校を取り巻く環境は、道路の整備にともない自転車の高速走行が可能であり、依然として危険な状況にある。事故の減少に安心することなく、安全意識が薄れぬよう、利用簿等の配布や生徒会を中心とした安全活動を継続し、生徒の事故防止意識を深める。</li> </ul>
		生徒の心に届く説諭を心掛け、保護者と教員の共通理解の上で指導する。	A		
	生徒の自主自律精神を育成する	生徒に依存心が生まれぬよう、すぐに答えを教えるのではなく、考えさせ正しい方向に方向付けすることを心掛ける。	A		
		教職員の指導力向上のため、職員研修を実施する。	B		
	交通安全教育を推進する	自転車事故を想定した、自動車学校による参加体験型の交通安全教室を実施する。	A		
リーフレット等の配布や、生徒会を中心とした安全活動を継続し、生徒の事故防止意識を深める。		A			
保健	生徒の健康保持、感染症への対応を図る	保健委員会等の活動を充実させ、生徒の日常的な健康管理の啓発に努める。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円滑な健康診断実施のため、他校の取り組みを参考に計画の充実を図る。</li> <li>・校医との事前打ち合わせを丁寧に行い、考査直前や考査期間中に各種検診が入らないよう、日程を考慮する。</li> <li>・保健委員会を活性化し、生徒が自発的に健康を維持するよう呼びかけを行う。</li> <li>・インフルエンザへの予防・対応は、環境整備や予防接種・手洗い・うがいの励行など、早期からの注意喚起を行う。</li> <li>・整美委員会を活性化し、生徒の美化意識を高める。</li> <li>・整美委員会で、美化コンクールの内容・実施時期について検討を行う。</li> <li>・生徒情報を共有する場を定期的に設け、保健室やスクールカウンセラーと職員が連携して生徒を支援する体制づくりを行う。</li> <li>・特別支援については情報交換だけでなく、方向性や具体的な対策を考えるケース会議の充実を図る。個別の支援計画の充実を目指す。</li> <li>・1年生に対しては、入学直後の時期にピア・サポートの実施を検討する。</li> </ul>
		インフルエンザの流行期には予防等について関係機関と連携を取り、適切に対応する。	A		
	生徒の日常的な校内の環境美化への意識を高めさせる	美化コンクールを年2回実施し、全校生徒の環境美化に対する意識を高めさせる。	A		
		保健課で定期的に校内を巡視し、清掃状況や危険箇所の把握に努める。	B		
	多様化する個々の生徒への支援を図る	職員研修会等、生徒の情報共有や支援の機会を充実させる。	B		
教職員の発達障害などへの理解を深める機会を設定する。		A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
進路指導	進路実現に向けて、主体的に行動できる生徒の育成を図る	PDCAシートを活用し、生徒が主体的に模試に取り組める指導体制を構築する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次において、英語力向上につながるキャンパス体験学習を検討する。</li> <li>・高大接続改革を見据え、進路講演会等を有効に活用し、体系的なキャリア教育の構築を図る。</li> <li>・アウトソーシングを活用し、大学進学説明会・大学出前講義を実施する。</li> <li>・総合的な学習の時間・進路探求学習を生徒の実態や教育改革に合わせて工夫し、体系化を図っていく。</li> <li>・1・2年のGTEC模試において、スピーキングテストを導入する。</li> <li>・2・3年課外の配当時間の見直しを行う。(理科・社会の時間数調整)</li> </ul>
		進路講演会・大学説明会・勉強合宿等を活用し、進路目標を明確にさせる。	A	
	多様な進路目標に対応できる指導体制を構築する	体系的な小論指導を見直し、外部講師等のアウトソーシングを積極的に活用し、小論文指導の充実を図る。	A	
		公務員・就職についても例年どおりアウトソーシングを活用し、充実を図る。	A	
	特進クラスの充実に向けて、模試分析とカリキュラムの検討を行う	希望制課外、希望制模試を効果的に行い、学力向上に繋げていく。 学力推薦入学者集会や国公立希望者集会を行い、情報を発信し先を見据えて行動できる生徒を育成する。	B	
研修図書	教員の資質向上を図る	職員研修会後にアンケートを実施し、必要に応じた研修ができるよう工夫する。 授業公開旬間を実施する授業の目標一覧を提示し、参観率100%を目指す。授業公開旬間以外での積極的な授業参観を奨励する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修会の内容を精選し、より効果的な研修方法について検討する。</li> <li>・今年度に引き続き、授業改善を目標とした取り組みを実施し、教科指導力の強化を図る。</li> <li>・校外の研修会について積極的に案内し、職員全体の研修意欲を高める。</li> <li>・図書館オリエンテーションやピブリオバトルの実施要項を見直し、図書館利用の増加につなげる。</li> <li>・授業における積極的な図書館利用をすすめ、生徒の主体的で深い学びに図書館を活用する。</li> <li>・生徒の読書に対する興味・関心を高めるため、図書委員会が中心になって取り組みを企画し、実施する。</li> </ul>
	図書委員会を中心に、生徒の主体的な読書活動を促す	「朝の読書」の目的を周知し、生徒が自ら進んで本を読む時間となるよう、図書委員を指導する。 朝の読書、読書感想文、ピブリオバトルとの繋がりを理解した上で、朝の読書活動に臨めるように周知する。	A	
		授業で使ってもらえるよう、図書館の効果的な利用について研究し、情報発信を行う。	B	
	図書館利用の推進を図る	選書アンケートを行い、希望があれば随時受け付けていることを周知する。	B	
		式典、行事の流れが把握できるよう、時系列的に要項を作成する。式典・照明・音響操作等が複数の職員で対応できるようにする。	A	
庶務	式典、学校行事の綿密な企画と円滑な運営を行う	式典、行事の流れが把握できるよう、時系列的に要項を作成する。式典・照明・音響操作等が複数の職員で対応できるようにする。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・式典・各行事については、他分掌との連携を密にし、準備を行っていく。</li> <li>・今年度はPTA総会、研修旅行、テーブルマナー等、多数の保護者に参加していただいた。今後は、職員の参加を積極的に呼びかけていく。</li> <li>・避難訓練及び講演を実施し、防災意識を向上させていく。</li> <li>・年度当初に年間のPTA行事について連絡し、多くの教職員が参加できるよう働きかける。</li> </ul>
	PTA総会、PTA行事の充実を図る	進路講演会に対する保護者の参加意識を高める。PTA行事の案内を早期に行い職員が参加しやすい体制を整える。	B	
	防災意識の向上、互助会関係行事の周知、奨学金希望者への対応を図る	消防署と連絡調整を密に行い、生徒の防災意識の向上につなげる。 互助会事業の意義を伝え、参加を呼びかける	A	
		互助会事業の意義を伝え、参加を呼びかける	B	
人権・同和教育	人権感覚の育成、人権意識の向上を図る	特設授業や指導案の作成に全職員で取り組み、全生徒の心に届く授業作りを目指す。 7月・12月の人権週間に「明日への伝言板」を放送し、人権の大切さについて考えさせる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態や社会の情勢に対応した教材内容を検討・精選し、全職員で生徒の心に届くような授業作りを行う。</li> <li>・今年度に引き続き7月・12月の年2回の人権教育・啓発週間の取組を実施する。また、生徒会との連携も継続していく。</li> <li>・定期的に情報交流会を開く。また、会議の参加者以外にも行き渡るように情報共有のシステムを整備する。</li> <li>・他分掌と連携しながら、様々な課題を抱える生徒の情報を共有し、必要な支援へとつなげる。</li> <li>・合格者登校日の相談コーナーや中高連絡会等で積極的に情報を入手し、個々の生徒に応じた必要な配慮や支援を行う。</li> <li>・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、地域の特別支援コーディネーターなど関係諸機関とも連携しながら、配慮や支援を行う。</li> </ul>
	生徒一人ひとりに対する確かな学力と進路を保障する	人権同和教育推進委員会で生徒情報を各学年で共有し、支援に繋げていく。 学習面や学校生活面で躓いている生徒が課題を乗り越えられるよう、職員間で連携し必要な支援を行う。	B	
		中高連絡会や入学式等の相談コーナーなど、様々な機会をととめて生徒の状況把握に努め、全職員で情報を共有する。	B	
	特別な支援や配慮を必要とする生徒への支援体制を構築する	特別支援教育に関わる資料・情報を共有し、職員の認識を深める。	A	
		特別支援教育に関わる資料・情報を共有し、職員の認識を深める。	B	
第1学年	八幡南高校生としての誇りを持った母校愛にあふれる生徒の育成を目指す	HRや集会で、八幡南高校の歴史と歩みをきちんと伝える。 学校を小さな社会とみなし、その中で生活するのに必要な校則遵守・マナーを守ることの重要性を教える。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度はHR・総学に余裕がなく、「母校愛にあふれる生徒の育成」は実施できなかった。来年度は年間計画に取り入れ、早期に取りかかりたい。</li> <li>・マナーについては年間を通して学年全体で指導することができた。来年度も引き続き、社会でマナーを守ることの大切さを教えていきたい。</li> <li>・学力が定着していない生徒に対してどの教科も調査前の補講だけでなく、日常からこまめな指導を行った。次年度も継続して行いたい。</li> <li>・部活動の入部率は目標としていた80%には届かなかったが、ほぼ目標は達成できた。今後は最後まで諦めることなく部活動を全うさせたい。</li> <li>・多くの生徒が国公立大学を希望しているが、目標が高いとは言えないので、次年度は高い目標設定をさせ、それに向かって努力させたい。</li> <li>・全国模試に臨む姿勢は良好とは言えなかった。来年度は今一度全国模試へ向かう過程と結果の重要性を伝えていきたい。</li> </ul>
	基礎学力と基本的な生活習慣が確実に身についた生徒の育成を目指す	基礎学力が定着していない生徒への学年の取り組みを早期に実施する。 学年集会やホームルーム活動で部活動への積極的な入部を促し、学業と部活動の両立の重要性を伝えていく。	B	
		早期に進路希望調査を実施して現状を把握し、高い目標設定の重要性を伝える。	A	
	高い進路目標の設定とその実現のための意識の高揚を目指す	早期に進路希望調査を実施して現状を把握し、高い目標設定の重要性を伝える。 全国模試への意識付けを早期に、かつ継続的に行う。	B	
		全国模試への意識付けを早期に、かつ継続的に行う。	B	
第2学年	それぞれの学習目標を明確にし、継続的に努力する姿勢を育てる	学年会議や担任会の中で各教科からの取り組みや授業状況について共通認識を図る。 朝読書の時間を利用し、苦手科目や苦手分野の克服に取り組む。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気になる生徒の情報交換や、特進クラスの状況については詳しく共通認識を図ることができたが、次年度は学習面についての情報交換にもっと時間をかけたい。</li> <li>・朝読書の時間を利用して、国語の評論文や英語に取り組む時間を設定することができた。次年度はもっと計画的に取り組みたい。</li> <li>・各専門委員長の選出から決定まで生徒会の生徒を中心に学年集会で提起し、修学旅行の実行委員も専門委員長に務めさせることで、学年のまとめやリーダーを育てることができた。今後も様々な場面で積極的にリーダーを活躍させていきたい。</li> <li>・学年合唱は年間を通して実行できなかったが、修学旅行前や、卒業式前に取り組み、学年としてのまとめができた。</li> <li>・個人面談の時間の確保が非常に難しく、次年度は個人面談の時間をどうにか工夫して確保したい。また、学習に関しての情報交換の時間を定期的に設定したい。</li> <li>・次年度も引き続き学年担当を中心にして、個々の進路に対応する指導体制を整えたい。</li> </ul>
	リーダーを育成し、活気あふれる学年集団を作る	各種委員会の取り組み等を学年集会の中で発表する機会を増やす。 学年集会で学年合唱に取り組み、学年全体でのまとめと活気を促す。	A	
		模試の結果や定期考査の結果を学年で分析し、面談をととめて生徒の意識を高める。	B	
	個々の進路希望にあった指導体制を整える	学年教員で担当を決め、進路希望別の進路説明会を行う。	B	
		学年教員で担当を決め、進路希望別の進路説明会を行う。	B	
第3学年	全生徒の第1希望進路の実現を図る	個人面談を積極的にを行い、生徒個人に個別に対応できるよう、全職員で支えていく体制を整える。 模試の事前事後指導を行い、結果に一喜一憂することがないよう、細やかな指導を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終的な進路先を確認するため、必要に応じて何度も個人面談を行った。個人面談は、副任や教科担当者も行っていただいた。</li> <li>・模試の1週間前の事前指導を各教科担当にお願しいし、実施してもらったが、事後指導が不十分だったかもしれない。</li> <li>・行事等で自律心にかける行動をとる生徒もいたが、全体としては大変思いやりのある集団であると自負している。</li> <li>・規則や約束を守らない生徒に対しては厳しく指導し、生徒もよく理解して指導に従った。</li> <li>・各教科担当者が授業を工夫し、定期考査2週間前には必ず試験範囲を提示して、試験に取り組ませた。</li> <li>・必要に応じて個別指導を徹底して行い、生徒もよくついてきた。他学年の先生方にも大変お世話になった。</li> </ul>
		自律心を持ち、他者を思いやる生徒集団を育成する。 厳しさの中にも温かさのある心に響く指導を心掛け、共感的理解・共感的人間関係を意識した指導を行う。	B	
	規律ある生徒集団を育成する	教科担当代表者会議を行い、生徒の学習意欲を高められるよう授業を展開していく。	A	
		教科担当代表者会議を行い、生徒の学習意欲を高められるよう授業を展開していく。 思考力・判断力・表現力を発揮する場面を設定し、自ら課題解決できる力を育成する。	B	
	主体的に取り組む生徒の育成を図る	思考力・判断力・表現力を発揮する場面を設定し、自ら課題解決できる力を育成する。	A	